

# 世界の神様物語

## ① はじめに

私は、宗教問題とは関係なく、この地球上には神様とも言える目に見えない大きな力が存在するような気がします。

それは、人種・民族・国家を超えて広がりを見せる宗教上の神もあれば、限られた地域にのみ信仰されるご神体もあります。

その点、日本という国は、常に、神を身近に感じる国民性なのか、八百万の神々を素直に受け入れる風習があります。

それらは、ある時は人の姿をした神様もあれば、太陽や星、山などの自然そのもの、または、動物や、何百・何千年の樹齢を重ねた大木の場合もあります。

今回から何回にわたるか判りませんが、いろんな国々の宗教の儀式に現われる神様について感じるまま、神様物語を書き綴ります。

## ② 先ずは インドの神様から

私には、神・仏を語る器、あるいは、立場に無い事は百も承知しながら、敢へて、このテーマへ踏み込む非礼をお許し頂き、ご高覧賜れば幸いです。

もともと、日本の神道や仏教にも多くの影響を与えた道教・儒教など古典中国思想は、皇室の行事にも随所に引用されてきました。その経典・故事来歴に因んだ幾多の慣例・風習は、すっかり日本に根付き、開花し伝承されてきたと言えます。

しかし、その珠玉の秘宝がある時期にヴェーダ（ヒンズー教）の国・インドに伝わり、お釈迦様の悟りによって仏教として開花したこと。そして、壁面9年の修行後、第28代・菩提達磨によって、再び、中国に達磨大師として里帰したことは意外と知られていません。昨今、先達のインド・中国で仏教徒は殆んど見受けませんが、ともあれ、唐天竺など三国志の昔より聖地とされる神の源流・インドからこの話を始めたいと思います。

## ③ インドの神話はビッグバンから

インドの神話は、ビッグバンの昔から遡ってその原理を解釈されています。無・爆発・エネルギー。そして、光の放射を含むバイブレーション、エネルギーで創造された密集体（宇宙の創造）その両脇に三位一体の神が存在します。

その様は、何千年もかかって人類が解き明かした科学の常識と全く符合するのです。画期的な発明・発見も、宇宙真理の謎解きの僅か数ページに過ぎないようです。

ところで、その三位一体の神は、創造主・守護者・破壊者という3つの機能に分かれています。我々日本人が馴染んできた神様からすれば、破壊者の神だけは、ちょっと、理解しがたい神様かも知れません。しかし、破壊＝再生・進化と解釈すれば現代に欠くことのできない神様です。

壮大な宇宙創造から始まるインド神話は素晴らしい真理を説いています。人

類発祥の原点を学び直して、エゴとストレスが渦巻く今の人間社会を少しでも良くしたいものです。

#### ④ ヒンズー教の神の化身とは

インド神話にあるオウムという語は、ビックバン直後の強い振動、放射の象徴的な波長を表していてマントラ（真言）の精髓です。

ヒンズー教の三位一体の神、創造主・守護神・破壊神は相互依存しております。他の神なしに一つの神が存在することはありえないのです。創造＝ブラフマ、守護＝ヴィシュヌ、破壊＝マフェシュの三神の中で、ヴィシュヌ神以外は、神の化身として世に出ることもなく、ただ、ヴィシュヌ神のみが数百の形に化身しています。

ブラフマ神は、ヴィシュヌ神によって守護される『種』を創造し、そして、輪回を成就した後、適切な時期にマフェシュ神が終極に導くというストーリーです。

例えば、象の顔を持つガネシュはマフェシュ神の子息であり、富の女神・ラクスマはヴィシュヌ神の配偶者。また、学問の女神・サラスワティはブラフマ神の娘という関係になります。

#### ⑤ 象の頭をもつガネーシャ神

インドの神様でまず日本人がびっくりするのはガネーシャ神です。象の頭を持つガネーシャ神は、帰依者を護り、恩恵と祝福をもたらす神です。新居に足を踏み入れるときや、結婚式など吉兆を祈る儀式には必ずガネーシャ神に祈りを捧げます。

象の頭の巨大さと力は、優れた知性と識別と英知の証で神を象徴します。象の頭が人間の体の上にあるのは人間と神の融合を意味しているとか、言い換えれば、小宇宙（人間）と大宇宙（神）の融合なのです。その大きな耳には並外れた情報収集力があり、なお、象はとても敏感な動物で、記憶力は鋭く深いものがあります。そして、草木に覆い茂ったジャングルを堂々と歩き、他の動物たちが歩けるように印をつけ道を開くとされています。まさに開運の神そのもの、インドでは深く信仰されています

#### ⑥ 吉兆な者を意味するシヴァ

『シヴァ』はヒンドゥー教の三大神の一人です。

シヴァには神の持つ破壊者の側面があり、正しくは『修復する者』『再生する神』となります。

また、シヴァには、次のような数多くの名前があります。偉大な神善を授ける者・慈善に富んだ主・良い価値を持った神・偉大な主・偉大な神・すべての生き物の主・至高の主とか。

さらに、シヴァには三つの目があり、それ故、三つの目を持つ者とも言われ

ています。額にある目は、内なるビジョン、悟りを与える英知の目でもあり、目の前に現われるすべての欲を焼き尽くす力も備わっているそうです。

また、シヴァの頭からは天国から地上に注ぐガンジス川が流れていて、宇宙にある数多くの贈り物の中から、その人に最も必要なものを選びぬき祝福を与える神と信じられています。

人間が修行してたどり着く悟りの世界は神の世界。それは死の世界を意味し、死はシヴァ神から賜る終局の祝福ということです。

#### ⑦ 喜ばす者を意味するラーマ神

約2万年前、ヴィシュヌはアヴァター（神の化身）としてシュリ ラーマの姿で光臨しました。ラーマの意味は文字通り『喜ばす者』という意味で、ラーマ神は二つのことを教えています。一つは執着を手放すこと、そしてもう一つは、すべての人の中に神を感じることの重要性です。人が神を信じ、物に対する執着心を解き放てるかが、解脱に至る鍵と教えています。

ラーマは一生を通じて、太古の英知の教義に基づき生きました。それは、生涯の中で与えられた数々の責任を果たしたばかりか、周囲の人々に理想の息子、理想の兄弟、理想の妻、理想の夫、理想の友、理想の帰依者、理想の王など、さまざまな理想的役柄を演じて人間を感化してきたのです。

また、ラーマは、ラーマチャンドラ（チャンドラは月）とも呼ばれ、その名の通り、静かに光り輝く月のように帰依者の心を清めてくれます。

#### ⑧ 創造の神・ブラフマーは擬人化されない

ヒンズー教の三大神のひとり、ブラフマーは創造の神です。宇宙の出現、創造、進化を司る神の側面を表します。真理、無限、全知の権化であるブラフマーは、擬人化した神としてはこの世に現われていません。

絵画で描写されるブラフマーは、赤い肌の色をして白い衣を纏い、全宇宙を創造したことを象徴し、四方に向いた四つの顔を持ち、髭のある年老いた男性の姿をしています。座している蓮の華は純粹さの証であり、識別力を表す白鳥を乗り物にしています。身にまとう黒い鹿の皮は厳格さ、また、四本の手は、知識＝本・繁栄＝水瓶・霊性＝数珠・・・などを象徴しています。ただ、注意してほしいのは、性別や姿のない普遍的・絶対的存在のブラフマンとは違うということです。ブラフマー＝梵天（日本名）

#### ⑨ 現代の神の化身・サイババの真理 ①

インドのヒンズー教のことについて、浅学を省みず独り言を続けてきましたが、世界の神々のご紹介にたどり着くまでには、まだしばらく時間がかかりそうです。そこで、しばらく話を現代に戻します。今、インドには神の化身と言われるサティア・サイババの存在があります。全世界から信じる宗教、所属する国籍とは関係なく多くの人々が師の祝福を受けに訪れています。かく言う私

も、1992年11月23日、師の誕生日のお祝いに南インド・ブッタパルティへ独り旅したことがあります。

祝賀の前日からインド大統領もお見えになり、それはとてもその場に居なければ想像もつかない賑わいでした。会場には10万人をはるかに超える帰依者が集まり、ペットの大きな象を従え、朱色の法衣をまとったサイババ師にこの世を越えた感覚で感涙したことを思い出します。以来、22年にわたり、サイラムニュースでその真理を学ばせて頂いています。その一端を、私なりに予断を交えずにご紹介してみたいと思います。



サイババ 1992.11.23. 誕生祭風景 インド／ブッタパルティにて

人間の進歩にとって  
心と頭が純粋なことが  
瞑想や祈りよりも重要であることを  
私は強調したいと思います

サティア サイババ

#### ⑩ 現代の神の化身・サイババの真理 ②

インドに神の化身として降臨されたサティア・サイババの存在は、信じるか信じないはそれぞれの判断としても、興味深い存在です。びっくりしたのは講話の1時間あまりの間、灼熱の太陽は小さな雲にさえぎられ観衆に涼を与え続け、また、散会のときは、遠くに二重にかさなる虹が現われ、霧雨が天空を覆い尽くし埃が消されたことです。

誰があなたを見ていようがいまいが  
わたしはあなたと共にいます  
あなたがどこにいようとも  
今もこれからも  
ここでもどこか別の場所でも

サティア サイババ

⑪ 現代の神の化身・サイババの真理 ③

祝賀の前日からインド大統領もお見えになり、それは大変な想像もつかない賑わいでした。当日の祝賀会場には10万人をはるかに超える帰依者が集まっていました。朱色の法衣をまとったサイババの一挙手一動を遠望しながらこの世で経験したことのない不思議な感覚で感涙したことを今でも憶えています。

その後、2ヵ月に1回・サイラムニュースにて届けられるメッセージは多くの謎を解き明かすような真理が含まれています。

神の愛は健康をもたらします  
ひと呼吸ごとに神に近づいていくような  
人生をおくりなさい

サティア サイババ

⑫ 現代の神の化身・サイババの真理 ④

祝典当日は、小高い丘陵に囲まれた広々としたグラウンドに炎天のもと10万人をはるかに超える帰依者が集まり、朱色の法衣をまとったサイババの一挙手一動に大観衆の歓喜の鼓動がコダマとなり響き渡りました。

テルグ語で説くサイババの講話は英語の同時通訳で翻訳されていました。英会話には判らなくても、その雰囲気から受ける不思議な覚醒感覚は今までに体験したことのないもので衝撃の記憶として残っています。

親の世話という点については  
皆さん自身に責任があります  
親は老人ホームに送られる  
べきではありません

サティア サイババ

⑬ 現代の神の化身・サイババの真理 ⑤

日本語が通じない、片言の英語は通じて相手も返事が聞き取れない。そんな時、一番頼りになるのは自分自身の目を通して網膜に写る映像の世界です。おそらく、鳥のような目をして観察していた気がします。

また、言葉でのコミュニケーションが取れないときの目の働きは、今迄生きてきて気にも留めなかったことが判るようになるのです。人々の動きが単に形の情報だけではなく、その心の奥にある情緒、行動の原点みたいなものが感じ取れるから不思議です。

誰にとっても  
一番に必要とされるものは  
清らかなビジョンです

サティア サイババ

#### ⑭ 現代の神の化身・サイババの真理 ⑥

サイババ師の教えのなかで私が最も共鳴し帰依できることは『人間はすべて神の分身であり、だれにでも神が宿っている』という一言です。私にも、あなたにも、かれにも、神がいると思えば自ずと対人関係が素晴らしい広がりになるはずです。

人の出会い、人生のいろんな苦・楽、すべては必然のストーリーであり、それは大昔からの神々の決まり事なのです。

あらゆる人間の神性を  
目覚めさせるために  
神のエネルギーの総体が  
サティヤサイとして  
人類へとやって来ました  
私はあなた方を見捨てません

サティア サイババ

#### ⑮ 古代中国の神様の真理

インドにひと先ず別れを告げて、今月から古代中国の神様のお話を致します。日本と中国のかかわりは古く、その故事来歴は日本史の中にも随所に出てきます。なかでも、皇室の関わりは深く、古くよき時代の伝統行事はこの中国思想抜きでは語られません。今月からその源流に触れていきたいと思えます。

中国には、最初に『道は理なり』という言葉があります。理が明らかにならなければ道を修める事はできない。先ず、『理を明らかにしなさい』と。

しかし続けて『理を明らかにする法はなし』と突き放しています。疑いがあれば、必ず『質問してきなさい。知らないことを謙虚に問うことは決して恥ではありません』と、戒めてもいます。

そこに神に至る『道』があるのです。そんな事・・・と、疑った時点から人々は『道』を離れます。『迷って悟らば、道を離れること遠きなり』

#### ⑯ 古代中国の真理 道とは何ですか

道とは天の理であり、人の霊性であり、天・地・人・物、皆一理によって生

じた本源です。故に、天には天の理、地には地の理、人には性理・靈魂があり、物には物理があります。天に理がなければ成り立たず、地に理がなければ万物は生ぜず、人に理がなければ生きることが出来ず、物に物理が無ければ成長できません。

孔子曰く『道なるものはかたときも離れるべからず。』故に、性を修める者は道を修めよ。道は、我々が必ず歩まなければならない大道です。正しい道は平々坦々、日に日に光明が開けますが、偏った道に進めば曲がりくねったり、凸凹があったりして必ず落とし穴があります。

言い換えれば、理に合えば光明の大道、理に背けば暗黒の邪道に落ちてしまうのです。道は、万類が生活する要素であり、万類を支配する主宰です。一切の有情の教主、虚無・静寂の真理でもあります。一刻たりとも道を離脱することはできません。

#### ⑰ 古代中国の真理 一貫道とは何ですか

一貫道の意味は深くその理は玄妙です。簡単に言えば、一は無極の真であり、万数の始まりでもあり、先天の妙と言えます。それは、神霊であり、光明であり、真理そのものです。貫は一切を貫き徹する意味を有し、無から有を、始めから終わりを貫く奥理です。一から天地万物、万事万類を貫く無極の真理は、すべての理を貫くので一貫と言います。また、道とは路のことでもあり理のことです。理に合えば道に合い、理に違えば道に背くことになるのです。

一をもって陰陽・古今・中外を貫通し、乾坤（男女の意）・動植物を貫徹する真理の大道であり、この大道こそが至善に返る一貫の道です。

孔子曰く、『誰ぞ出ずるに戸に由らざるか、何ぞこの道に由らざるか』とは還源の道であり、輪廻で迷昧している本来の霊を元に戻す道を指しています。『性理天道は得難い』と言われているのは一貫道のことであります。別の名を天道と言います。

#### ⑱ 古代中国の真理 天道の発現はいつか

天道の主神は天地創造の親神様、無生ラウム という神様。その発現は無始で宇宙が未だない無限の前から永劫に存在し、天地創造、一切の万有を生成・化育されてきた神様です。

易の祖、伏羲が世に出て初めてその様が明らかにされたのです。天を仰ぎ観て感じ、地に伏して動きを悟り、はじめて、天地の生まれ出る理を究めたのです。先天の八卦はこうして伏羲により画かれ、そこには天地創造と還源の奥深い玄妙の理が顕されています。これが大道を世に明かされた最初です。

道教の教祖、老子曰く『大道無形にして天地を生育す』とは、天地の源を指し、天地がない太古の昔から既にこの道・天道ある事を説いています。

無生ラウムは、天命を聖人に降して創造還源の法を与えました。天命とは、ラウムの命令に従い人間界に生まれ、ラウムに代って正しくその真理を樹立し、

万古不易の定理を未来に示唆する使命のことです。

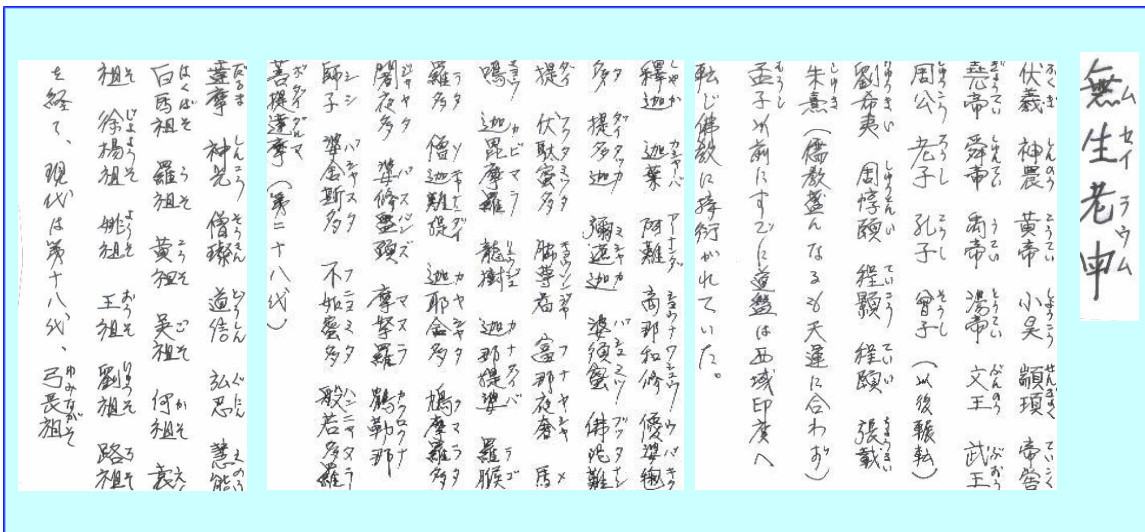
⑱ 神様物語・インド、中国編の中間まとめ

古代インドのヒンズー教からスタートした神様物語、今回の古代中国の話で一応その中間まとめとします。何故ならば、現在、我々の眼に映る中国の印象と古代中国の真理・思想的な価値観が余りにも結びつかないからです。

中国古代の真理は、第2次世界大戦後、中国共産党に追い詰められて台湾に渡った国府軍とともに中国大陆から姿を消してしまいました。日本に戦時賠償を求めなかった、時の蒋介石総統の人的寛大さは今の中国にはありません。

その点、インドには昔の神様物語が現存しています。ただ、仏教発祥の地でありながら仏教徒は非常に少なく稀です。もともと、お釈迦様もヒンズー教徒であったらしく、仏教もその分派的扱いなのかもしれません。南インド・ブッタバルティに現人神として生誕したサティア・サイババ(2011.4.24.没)は超有名です。宗派を超えて世界中から帰依者が今も絶えません。

㉑ インド、中国編より以前の神様物語  
天道由来・道脈＝古代中国⇒インド⇒中国



㉒ インド、中国編より以前の神様物語

紀元前のことをBCという略称で表現しますが、これはキリストの誕生前という意味で、Befor Christ の頭文字からきています。

世界で信仰されている宗教のなかで最も信者が多いのはキリスト教です。しかし、宗教の歴史はもっと古く、BC18世紀にはイラン高原北東部にゾロアスター(ザラシュトラ)が生まれて、ゾロアスター教を開宗しています。

旧来の多神教や偶像支配を否定し、正しい生き方を説くゾロアスターは、旧来の教えを信奉する人々から強い憎しみを受けることになりました。そして、



晩年、礼拝している最中に暗殺されたと伝えられています。宗教戦争はBCの時代からあったのです。

ゾロアスターは、善の霊が生命や真理の光を選び、それに対立する霊が死や虚偽や闇を選んだと説きました。善の霊は『知恵ある神』という意味で善悪を峻別する正義と法の神であり、創造主とされています。

## ② BCの神様物語のつづき ゾロアスター

BC6～4世紀古代イランで繁栄したアケメネス朝ペルシャでは、多くの王がゾアスターの教えを信仰しましたが、国教として強制はされませんでした。しかし、3世紀半ばにサーサーン朝ペルシャが成立するとゾロアスター教は国教と定められ、他宗教は禁じられたのです。その後、7世紀に入ってイスラーム帝国の支配下になるとゾロアスター教は衰退し、教徒たちは、非イスラーム教徒として信仰は認められたものの布教は許されませんでした。その上、多額の人頭税を課せられるなど多くの差別や迫害を受けたのです。このため、多くのゾアスター教徒たちはイスラーム教に改宗せざるを得ませんでした。

近代に入って、ゾロアスター教徒はイスラーム教徒と対等の権利を得ましたが、イランイスラーム革命後は再び弱い立場となり、小規模な共同体で信仰を守り続けています。そしてその一部は、10世紀にインド西海岸に移住しました。この人たちをパールシー（ペルシャ人の意味）と呼びます。現在、インドにおけるパールシーは少数派ながら富裕層が多く、社会的影響力も大きいようです。日本で有名なターター財閥もパールシー系です。

## ③ BCの神様物語のつづき ジャイナ教

BC599年、ジャイナ教は、インド・マガタ国(現在のビハール州)の王族・マハーヴィーラによって開祖された。30才のとき両親の死を契機に全財産を分与し、修行者となりました。

その後、13ヵ月の瞑想の後、すべての衣服と履物を捨て裸となり、一切の所有物を放棄し12年間の激しい苦行と瞑想に没頭したのです。

動植物を含むあらゆる生き物を傷つけないように努め、2日半にわたる瞑想の後、沙羅樹の下で真理を悟り、全能の力を獲得しジナ（勝利者）となりました。ジャイナ教は、このジナの教えという意味です。このとき彼は、『神はどこにも他者なる守護者として存在するのではなく、人間の内に神の化身が存在するのだ』と説いたと伝えられています。バラモンの祭祀を認めず、動物の生贄を批判しました。その教えは、徹底した不殺生と無所有の実践に重点が置かれています。不殺生は水中の微生物にも配慮し、採水には水こし袋を用いるくらいです。

インドにおけるジャイナ教は、現在、ごく少数派ですが裕福な人が多く、インド全人口の僅か0.4%です。しかし、インドの個人所得の20%を占めるとも言われています。

## ②④ BCの神様物語のつづき ブッダ(佛教)

紀元前5世紀、カピラヴァストウ（現在のネパールにある）で釈迦族の王子として生まれました。後年、『悟りを得た者』を意味するブッダ（仏陀）という名で呼ばれるようになりました。

青年になるまでの王子は、何不自由ない暮らしをしていましたが、あるとき街に出て、老い果てた老人、病人、死人を生れて初めて目の当たりにしました。そして、この世に生を受けた以上、誰であろうとも歳を取り、病にかかり、死ぬことは免れないこと、即ち、人の生涯は苦しみであることを悟りました。

その後、王子は街で修行者を見て、悟りを求めるため家庭生活を捨てたその修行者の大きな平安と幸せそうな輝きに驚きました。そこで、王子は、豪華な生活、妻、生れたばかりのわが子を捨て、修行者の衣に身を包み『真理』を求めて放浪の生活をする決心をしたのです。解脱のためにさまざまな修行を重ね自分自身の道を求めることを決意し、現在ブッタガヤと呼ばれる場所の菩提樹の下で深い瞑想状態に入り、ヴァイシャカ月の満月の日に悟りを開きました。（成道）

## ②⑤ BCの神様物語 ブッダ(佛教)続編

悟りを開いたブッダは、その後45年間にわたって人々に教えを説きました。ブッダの教えは四諦八道、すなわち、苦悩の存在・苦悩の根源・苦悩の停止と、八つの正しい道（正見・正語・正業・正命・正精進・正念・正思正惟・正定）を通して苦悩を終結させることを基本にしています。

ブッダは、釈迦牟尼（釈迦族の聖者）と呼ばれていますが、仏教では、釈迦牟尼世尊など幾通りにも呼ばれています。略して、釈尊・世尊・釈迦尊・釈迦佛・釈迦如来と称されていますが、勿論、日本ではお釈迦様という名が一般的です。

ブッダの入滅後、その弟子たちは、それぞれが聞いた釈尊の言葉をまとめて仏典を作りました。この頃の仏教を初期仏教と呼びます。そして仏陀入滅百年後、教団は上座部と大衆部の二派に分裂したのです。上座部は、釈尊時代の戒律を守って例外を認めない立場。大衆部は時代や地域の実情に即して十の例外を認めるべきとする立場でした。その後、インド各地に分散していた出家修行者がそれぞれの立場で釈迦の教えの内容を整理し解釈して論蔵をまとめるようになり、沢山の学派に分かれていきました。

## ②⑥ BCの神様物語 ブッダ(佛教)続々編

上座部仏教では、釈尊が臨終の際に言い残した『自灯明・法灯明（自らを依り所とし、法を依り所とせよ）』という教えを重視しています。やがて、利他行を重視する大乘仏教が興ってきます。

大乘仏教ではブッダ（悟りを得た者）は釈尊一人ではなく、これまでも無数の菩薩たちが成道し、別の世界でそれぞれブッダとして存在していると考え

るようになりました。そして、それまでの仏典には登場してこなかった、観音菩薩、文殊菩薩、普賢菩薩などが考え出されました。この場合の菩薩とは、如来（真如・真理から来る者）となる力がありながら、成仏せずに衆生の救済を続けている存在という意味です。このほかに、極楽浄土にいるとされる阿弥陀如来や東方浄瑠璃世界にいるとされる薬師如来なども考え出されました。

大乘仏教では、悟りは、この世のすべてのものは空であること（色即是空）を知る手段に過ぎないとしています。空は、煩惱と業を捨て去ることによって体得できます。しかし、自分だけが悟りえ得て彼岸に渡るのではなく、すべての生き物たちを救済する菩薩行を重視しています。また、在家信者も利他行によって仏になることができると説きました。

## ②⑦ BCの神様物語 ブッダ(佛教)最終編

大乘仏教からは、中観派、唯識派、浄土教、禅宗、天台宗などが派生し、中国、韓国、日本などにも広まっていきました。しかし、四世紀頃からはヒンドウ教が台頭し、インド仏教は次第に衰退していくようになりました。

七世紀にはヒンドウ教の神秘主義の影響を受けた密教が興りました。密教では、灌頂の儀式を授けられた者以外には明かされない秘密の教義・儀礼(口ではマントラを唱え、手では印を結び、心では大日如来の姿を思い描く)によって、仏になれるとされています。

密教は、その地方の習俗や宗教を取り入れ、仏を中心とした世界観の中に統一し、曼荼羅として表現しました。密教は、チベット、ブータン、中国、韓国、日本などに広がっていきました。しかし、十四世紀に入ると、イスラーム教の弾圧を受けて仏教はインドから姿を消していくこととなります。その後、イギリスの植民地支配を受けたのち、独立を果たしたインドでは、カーストによる差別を受けていた多くの人々が仏教に集団改宗するようになりました。現在のインドでは、仏教とは少数派ですが、信徒数は増加傾向にあります。

## ②⑧ 世界最大の宗教 イエス(キリスト教) A

キリストは救世主という意味で、イエスがキリストであるということを信じるのがキリスト教です。キリスト教は世界で最も信徒の多い宗教で、紀元前を表すBCは、Before Christ(キリスト以前)の略語です。イエス キリストが生まれたとされる年の翌年が、西暦元年とされています。(しかし、最近の研究ではイエスの誕生はBC 4年頃であると考えられています。)

イエスの母であるマリアは、結婚前に天使のお告げを受け、精霊により身ごもったと告げられます。ベツレヘムの馬小屋でマリアは男児を産み落とし、その子はイエスと名付けられました。このとき、救い主の誕生を知った3人の賢者が東方より現われ、イエスに贈り物をしたと言われています。キリスト教では、この日をクリスマスとして祝います。

イエスはガリラヤ地方のナザレで育ちました。そして12才になったとき、エルサレムまで巡礼に行きました。途中で迷子になったイエスを両親が探し当てたとき、エルサレムの神殿でイエスは学者と語り合っていたと伝えられてい

ます。

②⑨ 世界最大の宗教 イエス(キリスト教) B

成人になったイエスは、ヨルダン川のほとりで洗礼者ヨハネから洗礼を受けます。

そのときイエスは天から『あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』という声を聞きます。精霊によって荒野に追いやられたイエスは、そこで40日間断食し、悪魔の誘惑を受けますが退けます。

その後イエスは、ガリラヤへ行き『悔い改めよ、神の国は近づいた』と福音を宣教を始めます。人々の病を治し、さまざまな奇跡を起こしたイエスのもとには、おびただしい数の群衆が集まるようになりました。

しかし、イエスを妬む人々の計略により、イエスは捕らえられてしまいます。そして自らをユダヤ人の王であると名乗り、神の子、救世主と自称した罪で裁判にかけられ、磔の刑に処せられました。死後、十字架から降ろされ、墓に埋葬されたイエスは、3日後に復活して、大勢の弟子の前に現われました。このイエスが復活した日は、復活祭（イースター）として祝われています。

③⑩ 世界最大の宗教 イエス(キリスト教) C

イエスは隣人愛の大切さを説きました。イエスの教えと使徒（弟子）たちの言行は、新約聖書に纏められています。旧約聖書と新約聖書は、キリスト教の正典です。現在のキリスト教は、歴史的経緯や教理解釈の違いによって、沢山の宗派に分かれています。西方教会と東方教会に大別することができます。西方教会の中には、ローマ教王をトップとするカトリック教会、英国独自の英国国教会、十六世紀の宗教改革によりカトリックから分離したプロテスタント（新教）があります。

ルーテル協会、改革派協会、会衆派協会、メソジスト協会、パプテスト協会などはプロテスタントです。東方教会には、ギリシャ正教会、ロシア正教会、日本正協会などが連合する正教会や、インド正協会、シリア正教会、エチオピア正教会などが連合する非カルケド派などがあります。

現在、インドのキリスト教は、ヒンドゥー教、イスラーム教に次いで三番目に信徒数が多く、そのほとんどは、ローマカトリックで、南インドに集中しています。

③⑪ 世界最大の宗教 イエス(キリスト教) D

キリストの言葉・『隣人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなた方の聞いているところである。

しかし、わたしはあなた方に言う。『敵を愛し、迫害する者のために祈れ。』こうして、天にいますあなた方の父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者の上にも、雨を降らして下さるからです。

### 【使徒パウロの言葉】

たといわたしが人々の言葉や御使いたちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘と同じである。たといまた、わたしに予言する力があり、あらゆる奥義と知識に通じていても、また山を動かすほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。愛は寛容であり、愛は情け深い。また、妬むことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、無作法をしない。自分の利益を求めない。中略・そして、すべてを信じ、望み、すべてに耐える。

### ③② アッラー（イスラム教）イ

アッラー（アッラーフ）とは、宇宙のすべてを含む至高のものという意味です。

アッラーは、始めも終わりもない、匹敵するものがない姿形のない存在です。アッラーは創造する者であり、維持する者であり、すべての存在を提供する者であり、審判する者であり、報酬を与える者です。

アッラーの栄光は、『全能そのもの』、『慈悲そのもの』、『荘厳そのもの』、『聡明そのもの』、『全知そのもの』、『慈善そのもの』、『創造主』、『目撃者』など99の名によって褒め讃えられています。バジャンには、『アッラーは最も偉大である』という言葉がよく歌われます。

イスラームとは、『神への絶対的帰依』を意味する言葉です。イスラーム教徒は、自分たちのことをムスリム（神に帰依する者）と呼びます。

イスラーム教の開祖であるムハンマド（マホメット）は預言者であり、「ムハンマドは神の使徒である」と宣誓することが、ムスリムの義務とされています。

### ③③ アッラー（イスラム教）について ロ

ムハンマドは、570年ごろにアラビア半島のマッカ（メッカ）に生まれました。610年ごろヒラー山の洞窟で瞑想をしているとき、大天使ジブリール（ガブリエル）と出会い、唯一神であるアッラーの啓示を受けたと伝えられています。

その後、預言者としての使命に目覚めたムハンマドは、人々に教えを説き始めます。マッカで迫害を受けたムハンマドたちは、622年にヤスリブ（のちのマディーナ）に移住します。ちなみに、イスラーム暦は、この年を元年とする太陰暦です。爾来、イスラーム共同体が発展を続けるなか、632年にムハンマドは亡くなります。

イスラーム教の啓典は、預言者ムハンマドが伝えたアッラーの言葉をまとめたクルアーン（コーラン）です。このほかに、預言者ムハンマドの言行を書き残したハディース（伝承）も重要な指針とされています。そのほかに、啓典ではありませんが、クルアーンとハディースをもとに作られたシャリーア（イスラーム法）によって、日常生活、政治活動などが細かく定められています。

#### ③④ アッラー（イスラム教）について ハ

ムスリムは、神(アッラー)、天使(マラーイカ)、啓典(クトゥブ)、使徒(ルスル)、来世(アーヒラ)、定命(カダル)、という六つのものを信じなければならない(六信)と定められています。

また、信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼の五つ(五柱)を行うべきと定められています。よく知られるとおり、ムスリムの人々は、世界中どこにいても、1日5回、カアバ神殿の方角に向かって礼拝します。礼拝の前には、水か太陽で消毒された砂で、外気に触れている皮膚を清めなければなりません。

アッラーは、宇宙の創造者であり、さまざまな法・規範も定めているとされています。人間は、各自がその責任によって悪を退け、善を行わなくてはなりません。宇宙の終末の日にすべての人間は蘇り、生前の行爲を読み上げられて審判が下されるとされています。

イスラーム教は一神教で、偶像崇拜がなく、唯一神・アッラーの姿を描くことも禁じられております。(絵の中には、クルアーンと、アラビア語のアッラーという文字が描かれています。) 34 アッラー（イスラム教）について ハ

ムスリムは、神(アッラー)、天使(マラーイカ)、啓典(クトゥブ)、使徒(ルスル)、来世(アーヒラ)、定命(カダル)、という六つのものを信じなければならない(六信)と定められています。

また、信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼の五つ(五柱)を行うべきと定められています。よく知られるとおり、ムスリムの人々は、世界中どこにいても、1日5回、カアバ神殿の方角に向かって礼拝します。礼拝の前には、水か太陽で消毒された砂で、外気に触れている皮膚を清めなければなりません。

アッラーは、宇宙の創造者であり、さまざまな法・規範も定めているとされています。人間は、各自がその責任によって悪を退け、善を行わなくてはなりません。宇宙の終末の日にすべての人間は蘇り、生前の行爲を読み上げられて審判が下されるとされています。

イスラーム教は一神教で、偶像崇拜がなく、唯一神・アッラーの姿を描くことも禁じられております。(絵の中には、クルアーンと、アラビア語のアッラーという文字が描かれています。)

#### ③⑤ アッラー（イスラム教）について ニ

現在イスラーム教は、世界で2番目に信徒数の多い宗教です。イスラーム教には、スンナ派とシーア派という大きな二派があります。

スンナ派は、預言者ムハンマドの時代から積み重ねられた慣行(スンナ)に従う立場です。イスラーム法学者たちの議論を通じて、クルアーン、慣行、合意、類推の四つの方法から、法を解釈します。イスラーム法学には四つの学派があり、スンナ派の信徒はどれかの法学派に属して、自分の生活を律します。

イスラーム主義国家のほとんどはスンナ派が主流です。スンナ派には、『預言

者の時代を見習って、退廃した社会を正そう』という復古主義、原理主義が多く見られます。

シーア派は、ムハンマドの従兄弟であるアリーの子孫のみがイスラーム共同体の指導者(イマーム)となるべきだという立場です。スンニ派のイマームから弾圧を受けたため、シーア派のイマームは断絶してしまいました。そのため、イマームは神によって隠されており、やがてマフディー(救世主)となって再臨するというメシア信仰を持っています。

### ③⑥ アッラー (イスラム教) について ホ

シーア派は、イランの国教です。このほかにイラク、レバノン、アゼルバイジャン、バーレーンなどでもシーア派が多数派となっています。パキスタン。サウジアラビア東部、オマーンなどにもシーア派の集団がいます。インドは、インドネシア、パキスタンに次いで世界で三番目にムスリムの多い国です。

16世紀にインドで栄華を誇ったムガル帝国の崩壊後、イギリスの統治を経て統一インドとして独立すると、少数派のムスリムが不利益をこうむるとして分離独立を求めました。1946年8月16日ムスリムとヒンズー教徒の大衝突が起り、インド全土で1万数千人の人々が命を失う結果となりました。このような経緯を経て、1947年8月14日、東西パキスタンが独立、翌日8月15日インドが独立を果たしました。

このとき多くの非イスラーム教徒がインドを出てパキスタンに逃れ、難民となりました。後に1971年、東パキスタンはバングラデシュとして独立しますが、このときも多くの難民がインド側に逃れた経緯があります。

### ③⑦ アッラー (イスラム教) について ヘ

イスラーム教では、アッラーのもと人々は平等であるとされているため、カーストによる差別はありません。そのため、インドでは、カーストによる差別を受けていた人々がイスラーム教に改宗するケースもあります。イスラム共同体は同胞意識が強く、財産に応じた一定額を毎年寄付する喜捨を再配分して、困窮者を援助しています。最後にクルアーンの1節を紹介します。

アッラー、かれの外に神はなく、永遠に自存されるお方。仮眠も熟睡も、かれをとらえることは出来ない。天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。

かれの許しがなくて、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。かれは、(人びとの) 以前のことも以後のことも知っておられる。かれの御意にかなったことの外、かれらはかれの御知識について、何も会得することはないのである。

かれの玉座は、凡ての天と地を覆って広がり、この二つを守って疲れも覚えられない。かれは至高にして至大である。(クルアーン第2章255節)